昨日よりちょっと興味がわく

三次市の財政



もくじ

１．はじめに　・　・　・　・　・　・　Ｐ２
２．そもそも財政ってなに？・　・　・　・　Ｐ３
３．予算と決算・　・　・　・　・　・　Ｐ５
４．市の貯金と借金　・　・　・　・　・　Ｐ７
５．指標でみる財政状況　・　・　・　・　Ｐ１０
６．今後の三次市財政・　・　・　・　・　Ｐ１３
７．三次家の家計簿　・　・　・　・　・　Ｐ１４
８．おわりに　・　・　・　・　・　・　Ｐ１５

1．はじめに

この冊子は、市民のみなさんに、三次市の財政をわかりやすくお伝えするために作成しました。

「財政」と聞くと難しく感じられるかもしれませんが、できるだけやさしい言葉で、親しみやすく説明しています。

この冊子を通して、三次市のお金の使い方やまちづくりに少しでも関心を持っていただき、市政に親しみを感じていただくきっかけになればうれしいです。



私が説明していくよ♪

2. そもそも財政ってなに？

財政を簡単に言うと、市のお金をどのようにやりくりしていくかということです。

市には、税金や国・県から入るお金など、さまざまな収入があります。財政では、どのくらいお金が入ってくるのかを見込み、何にどれだけ使うかを決めていきます。

１年間のお金の使い道をあらかじめ決めたものを「予算」といい、年度が終わった後に、実際にどのようにお金を使ったかをまとめたものを「決算」といいます。

また、家計と同じように、いざというときに備えるための「貯金（基金）」や、学校・道路などを整備するために借りる「借金（市債）」を管理することも、財政の大切な役割です。

その年の事業だけを見るのではなく、三次市の将来を見据えながら、毎年の予算を考えていくことが大切です。



予算
収入・支出を予測、計画する

予算執行
サービスを提供する

決算
どのようにお金を使ったのか確認する

次年度の予算に評価を反映させる



市役所の仕事は、市民のみなさんの暮らしに深く関わっています。

たとえば、赤ちゃんが生まれるときの支援、子どもたちの教育、道路や下水道の整備、ごみの収集、高齢者の健康づくりや介護など、さまざまな分野で市民生活を支えています。

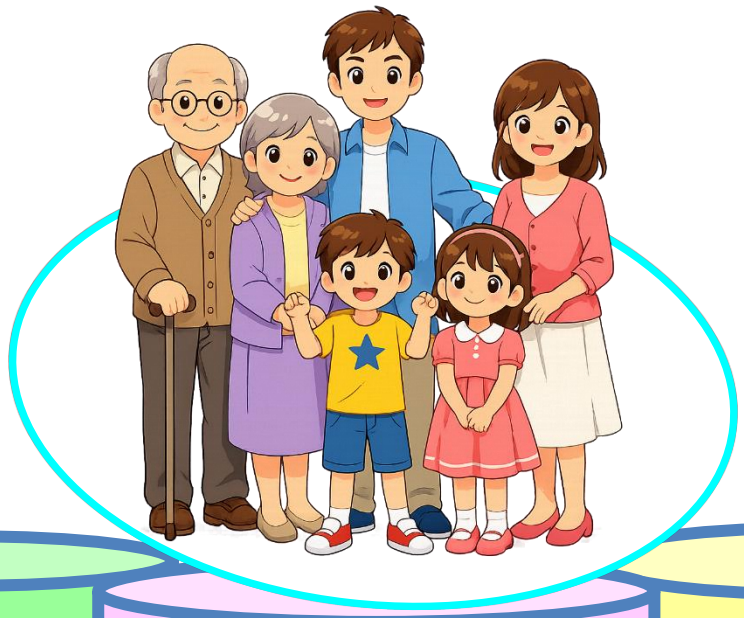
市役所は、人生のさまざまな場面で、安心して暮らせるまちの基盤をつくる役割を担っています。



ここでは、三次市の会計３本柱について説明するよ。



三次市の会計は、「一般会計」「特別会計」「公営企業会計」という性質の異なる３つの会計に分かれています。
このうち、最も基本となる会計が「一般会計」です。



公営企業会計

利用者のみなさんからいただく料金などを主な収入として、民間企業と同じように運営している会計です。
三次市には、２つの公営企業会計があります。

病院事業会計
下水道事業会計

一般会計

一般会計は、市役所の仕事の中でも基本となる会計で、市民のみなさんの暮らしに身近なさまざまなサービスを支えています。
たとえば、子育て支援、子どもたちの教育、道路や公園の整備、ごみの収集、高齢者の健康づくり、防災対策など、毎日の生活に関わる幅広い事業に使われています。

特別会計

国民健康保険税で国民健康保険事業を運営するように、特定の事業を特定の収入でまかなう会計です。
一般会計とは分けて管理しており、三次市には５つの特別会計があります。

国民健康保険特別会計
診療所特別会計
介護保険特別会計
後期高齢者医療特別会計
土地取得特別会計

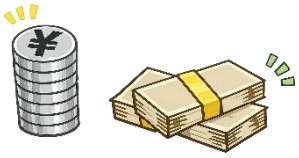
3. 予算と決算

予算と決算を比べるため、直近の決算が出ている令和７年度を見ていきましょう。
今回は、一般会計に的をしぼって説明します。



令和７年度の当初予算額は

395 億７千万円



金額が大きすぎてイメージが湧かない・・・

そこで、三次市の人口４万 7,223 人（令和８年１月１日現在）で平均してみると・・・

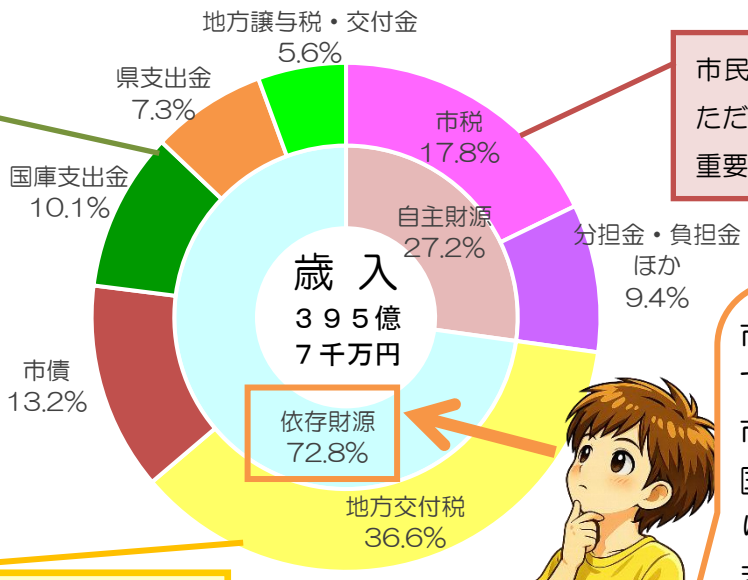
一人当たり　　約８３万８千円

の予算が組まれていることになります。

こんなにたくさんのお金はどこから入ってくると思いますか？



市民の生活にどうしても必要な事業は、国や県からの補助金などを積極的に活用して、事業を進めています。



市民のみなさんに納めていただいた税金は、市を支える重要な財源の一つです。

国は、全国の自治体で必要な行政サービスを行えるように、所得税などの国税の一部を地方自治体に配分しています。

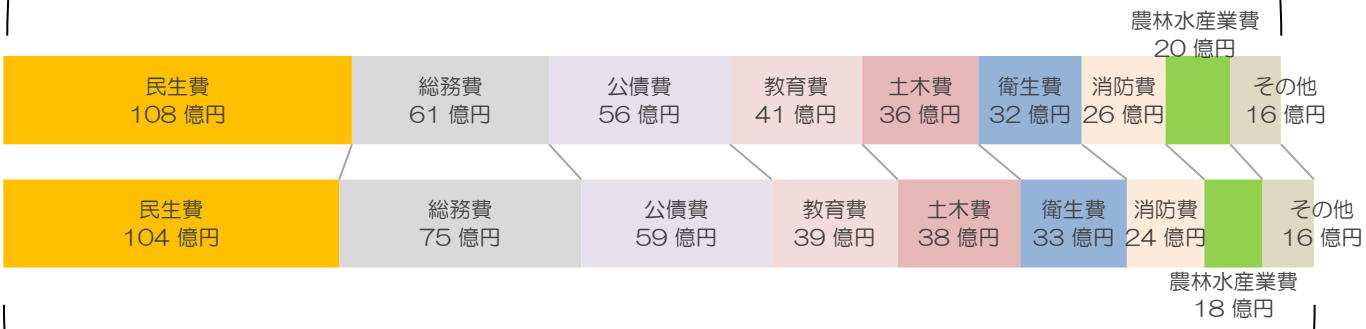
市民が納めた税金だけでは足りないんだ。
市の予算の７割以上は国や県からもらったり、借金をしたりしてまかなっているんだね。

今度は、この予算がどのように使われたのか見てみよう。



予算の使い道はこのように決められています。さらに下のグラフはこの年の決算と比較したものです。

令和７年度当初予算総額 395 億 7,000 万円



令和７年度決算総額　　405 億 8,712 万円



あれ？予算額より決算額の方が大きくなっているけど、いいの？



年度の初めに予算を決めていても、災害の発生など、予定していなかったことが起こることがあります。
そのため、いったん決めた予算でも、必要に応じて議会の議決を受けて、内容を見直すことがあります。これを「補正予算」といいます。

決算総額を見ると、福祉や子育てなどに係る民生費が１０４億円、道路整備などに係る土木費が３８億円、学校・スポーツ・文化振興などの教育費が３９億円で、市民の生活に直接つながる分野に多くの費用が使われていることが分かるね。



民生費・・・福祉や子育てなど安心して過ごすためなどに使われるお金です。
公債費・・・市債（借金）の返済に使われるお金です。
総務費・・・職員給料や庁舎管理、戸籍、統計や地域振興などに使われるお金です。
衛生費・・・健康増進、疾病予防やごみの処理などに使われるお金です。
土木費・・・道路や公園などを整備するのに使われるお金です。
教育費・・・市立の小中学校、スポーツや文化振興などに使われるお金です。
農林水産業費・・・農業や林業などのために使われるお金です。
消防費・・・消防や防災などに使われるお金です。
その他・・・商工振興や議会のために使われるお金が含まれています。

4. 市の貯金と借金

市には「基金」といわれる貯金と、「市債」といわれる借金があります。



基金

基金には、教育、地域振興や都市基盤の整備など、使い道があらかじめ決まっている「特定目的基金」と、使い道が自由で、財源の調整のために活用する「財政調整基金」があります。



家計にたとえると、「特定目的基金」は教育のために積み立てておく預金に、「財政調整基金」は毎日の生活に備える普通預金に似ているんだね。

三次市の一般会計の基金残高は令和７年度末で

約１７９億円　です。

市債

学校を建てたり、道路を整備したりするためのお金を、その年だけで全て支払うと、ほかのサービスに使うお金が足りなくなってしまいます。
そのため、借金を行い、何年かに分けて負担していきます。



家計にたとえると、家を建てるために住宅ローンを組むのと同じね。

学校や道路は、これから先の市民も使っていくものです。
そのため、今の世代だけが費用を負担するのではなく、将来の世代にもバランスよく負担してもらうことで、公平さを保つことにもつながります。

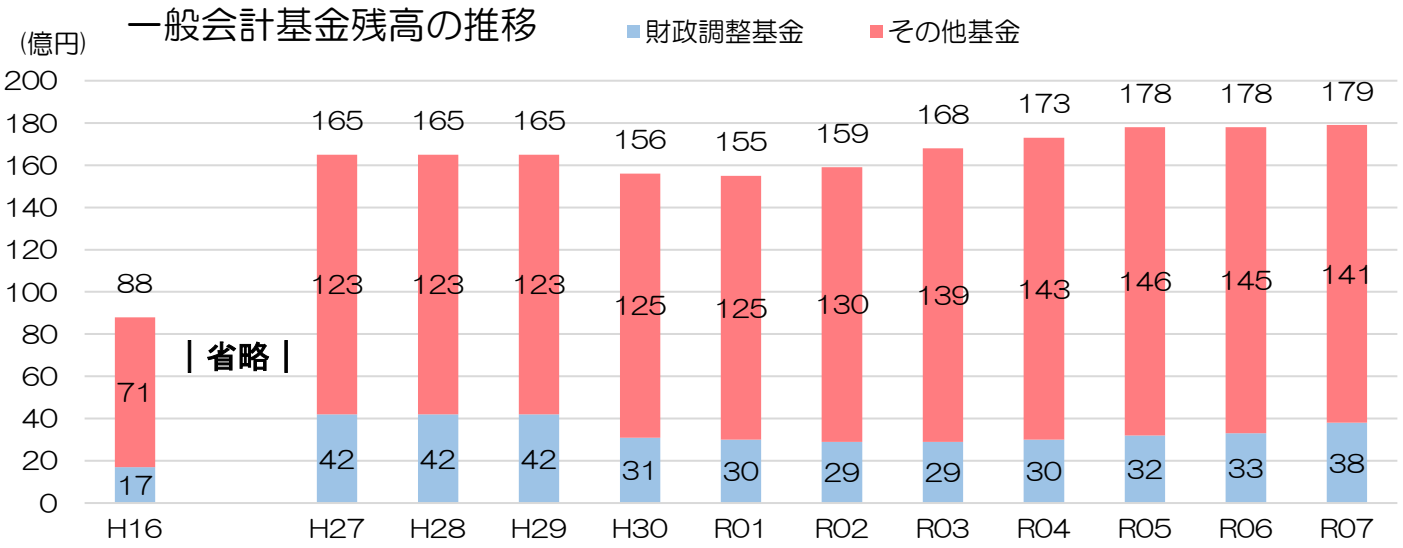
三次市の一般会計の市債残高は令和７年度末で

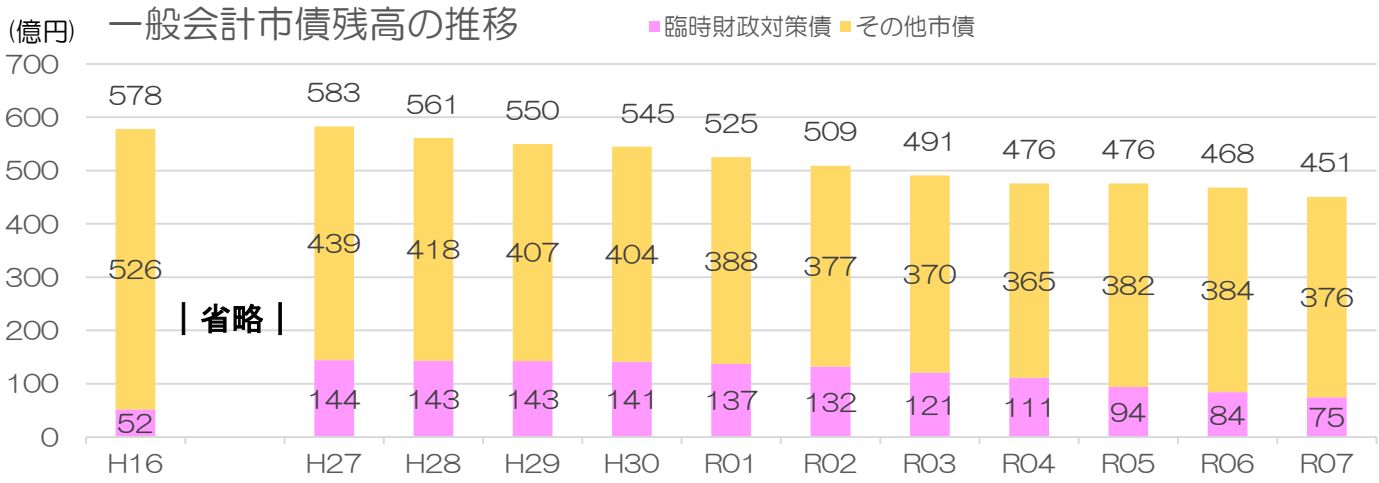
約４５１億円　です。

つぎに、一般会計での「基金」と「市債」の推移を見てみましょう。

基金は合併以降おおむね増加し、近年は 150 億円から 180 億円程度で推移していることが分かります。人口 1 人当たりで見ると、県内の他の市町と比べて多い水準です。
一方、市債は減少傾向にあります。新たな借金を返済額以内に抑え、市債残高が増えないよう努めています。ただし、市債残高も人口 1 人当たりで見ると、県内の他の市町と比べて多い水準です。









基金より市債が多いと、少し不安だけれども、大丈夫かしら？

確かに、基金はあるけど、それ以上に市債が多いんだね。

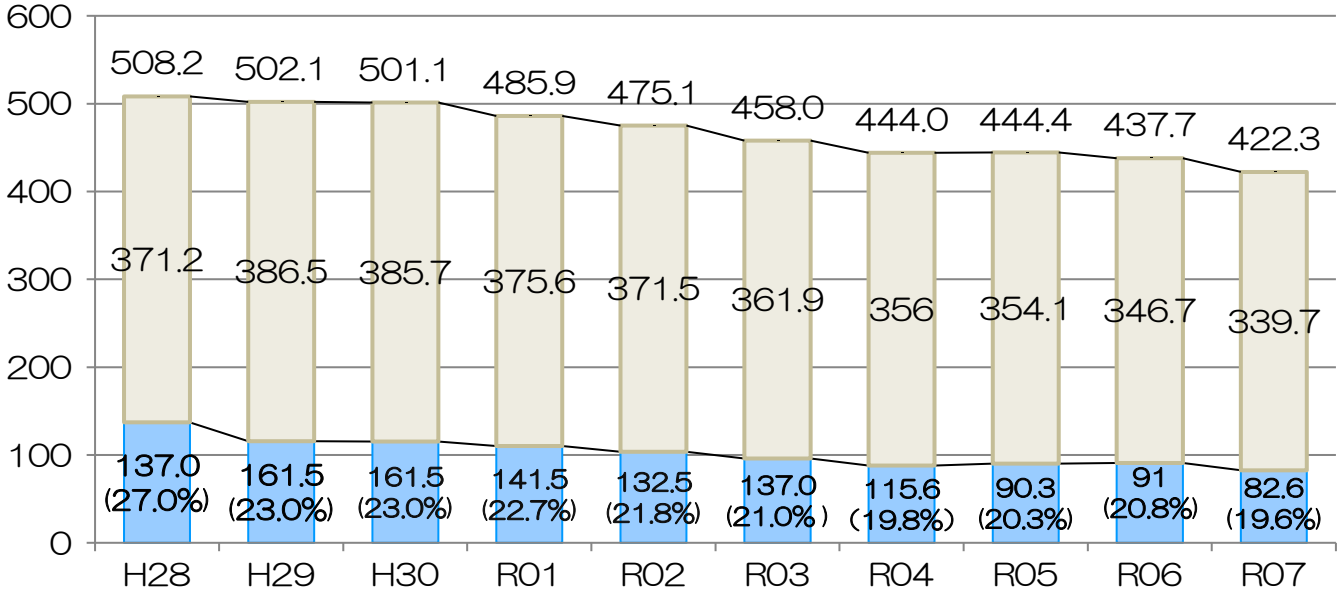


では、こちらの普通会計の市債残高を示したグラフを見てみましょう。



実質的な市債残高（普通会計）

（億円）後年度の交付税措置額を考慮した場合の実質負担（推定値）



普通会計：公営事業会計以外の一般会計を中心としてまとめた基本的な会計で、
地方財政状況調査（決算統計）等において、全国で統一的に用いられる会計です。



実質的な市債残高って何のこと？

実は、市債の中には、返済額の一部について国が負担するものがあります。このグラフでは、その分を「交付税措置額」として示しています。
「実質的な市債残高」とは、市債残高から、この交付税措置額を差し引いたものです。





へぇ。じゃあ、普通会計の市債のうち、市が実質的に負担する必要がある金額は、グラフの青い部分ということなんだね。
少し安心したけれど、三次市の財政が大丈夫かどうか、もっと分かりやすく見る方法はないのかな。

5. 指標でみる財政状況

少しずつ、財政に興味が湧いてきたね。
「財政健全化判断比率」という指標を見ると、三次市の財政が健全に運営されているかどうかが分かるんだよ。

少し難しい言葉だけれど、できるだけ分かりやすく説明するね。



令和７年度も国の定める基準をクリアしていることから、三次市の財政は健全に運営されています。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定に基づく指標の状況

区分	三次市	早期健全化基準（イエローカード）	財政再生基準（レッドカード）
実質赤字比率 普通会計で、その年度の収支が赤字になっていないかを見る指標です。	赤字なし クリア	12.24%	20.00%
連結実質赤字比率 すべての会計を合わせて、その年度の収支が赤字になっていないかを見る指標です。	赤字なし クリア	17.24%	30.00%
実質公債費比率 借金の返済に充てるお金が、市の財政規模に対してどのくらいの割合になっているかを見る指標です。この指標が高いほど、財政運営における返済負担が大きいことを表します。	6.5% クリア	25.0%	35.0%
将来負担比率 今後支払っていく見込みのあるお金が、市の財政規模に対してどの程度あるかを見る指標です。この比率が高いほど、将来の財政負担が大きいことを表します。	31.2% クリア	350.0%	-

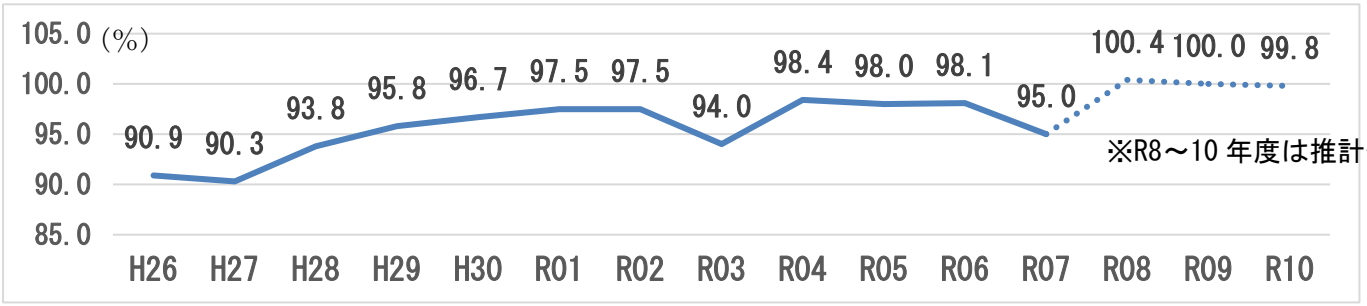
つぎに、「経常収支比率」で三次市の財政の余裕度を見ていきます。



経常収支比率

毎年度、継続的に収入が見込まれる経常的な一般財源に対して、毎年度必要になる経常的な支出の割合を示す指標のことです。この数値は、財政にどれくらいゆとりがあるかを見る目安で、高いほど余裕がなく、新しい取組や将来への投資に使えるお金が少なくなります。

三次市は、近年 90%台後半で高止まりしており、令和６年度は 98.1%、令和７年度は 95.0%となっています。令和８年度には 100%を超える見通しであり、財政の余裕が小さくなっていくことが分かります。



すごく簡単な計算式で表すと、つぎのとおりです。

$$経常収支比率＝\frac{毎年度必要になる経常的な支出}{毎年度見込まれる経常的な収入}\times 100\ (\%)$$





経常収支比率が 100%を超えると、財政が運営できなくなって、財政破たんしてしまうの？

ふるさと納税による寄附金や財産の売却収入などの一時的な収入や、公共施設の建設費や災害復旧費などの一時的な支出は、この指標の計算には含まれません。そのため、経常収支比率が 100%を超えたからといって、すぐに事業ができなくなるわけではありません。





なるほど。気を付けて見ていくことが大切なんだね。

将来の社会保障費の増加や公共施設の維持管理費の増加、近年の物価高などに対応するため、経常的な支出を見直すなどして、財政の弾力性を高めておくことが重要です。



三次市の財政状況を指標からみると、財政は健全に運営されているものの、毎年の財政運営には、あまり余裕がない状況が続いているといえます。

類似団体との比較

今度はこれを見てね。

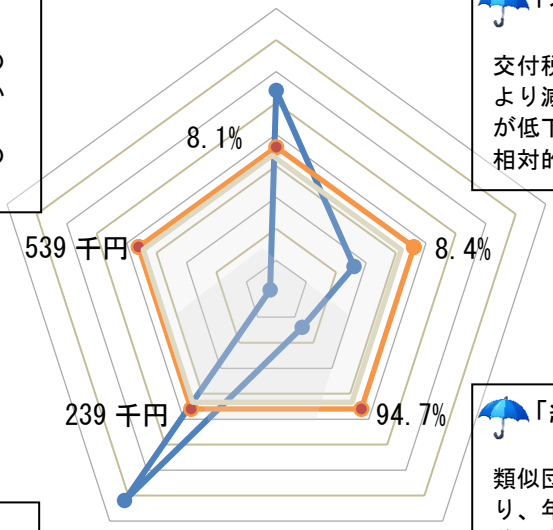


三次市
類似団体中央値

「実質公債費比率」7.2%　【14 位/46 都市】
繰上償還の実施や、新規地方債発行額を元金償還額以内に抑えることにより、将来の公債費負担の増加を抑制してきたことに加え、過疎対策事業債など交付税措置のある有利な地方債を活用し、実質的な一般財源負担の軽減を図ってきたことによるものです。

「一人当たり市債残高」914 千円　【45 位/46 都市】
これまで公共施設や道路などの建設事業の財源として市債を多く借入れてきたことから、類似団体と比べて多くなっています。ただし、９ページで説明したとおり、市の実質負担分は２割程度で推計しています。

「将来負担比率」35.5%　【33 位/46 都市】
交付税措置率の高い地方債の残高が償還により減少し、地方債残高全体に占める割合が低下したことから、実質的な将来負担が相対的に増加したことによるものです。



「経常収支比率」98.1%　【39 位/46 都市】
類似団体平均よりも高い比率で推移しており、年々増加傾向となっています。これは普通交付税の減少に対して、固定化した三次市独自の行政サービスが多いことから歳出の減少が追いついていないことが大きな要因です。

「一人当たり基金残高」363 千円　【5 位/46 都市】
これまで計画的に基金を積み立ててきたため、類似団体と比べて多くなっています。

- 令和６年度決算数値で比較しています。
- 「類似団体」とは、人口及び産業構造等により全国の市町村を 35 のグループに分類したものです。
- レーダーチャートは、一部の団体の極端な数値に影響されにくいよう、平均値ではなく中央値（46 団体中 23 番目相当）を示し、類似団体内での順位を比較しています。
- グラフの値が外側にあるほど良好な状態です。

三次市の財政は、国の健全度の基準はクリアしているものの、同じような規模の市と比べると、自主的に使える財源が少なく、毎年継続して必要となる支出の割合が大きくなってきているんだね。





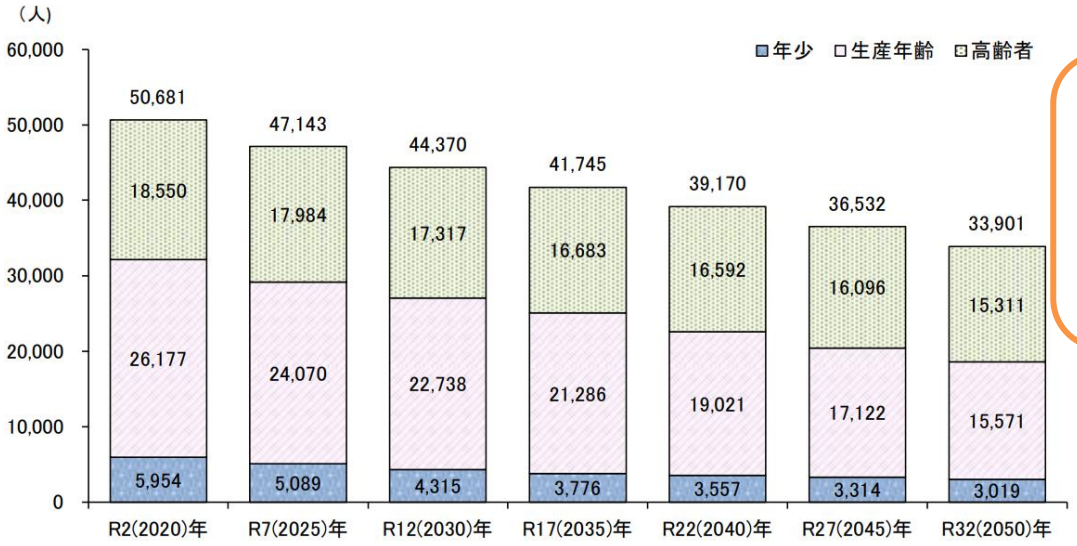
そうだね。基金は比較的多いけれど、それ以外はあまり余裕があるとはいえない状況のようだね。経常収支比率や一人当たりの市債残高も高いね。このままの状態が続くと、基金も少しずつ減っていくおそれがあるんだね。

6. 今後の三次市財政

現在の三次市の財政について少しずつ理解できたかな。
では、今後はどうなっていくのかちょっと想像してみよう。

人口が減少することが予想されます！





三次市人口ビジョン 令和 6（2024）年 7 月改訂　30 ページ「年齢 3 区分別の将来人口推計」より

いまひとつ分かっていないんだけど、人口が減ると財政にはどのような影響があるの？





人口が減ると、三次市に税金を納めてくれる人が減ってしまいます。
それに、高齢者と若い世代のバランスが変わると、医療や介護などに必要なお金は増えやすくなります。一方で、市に入ってくる税金は増えにくくなるため、使えるお金に余裕が少なくなっていきます。

なるほど。働く世代が減ることも、三次市の財政に影響してくるのね。





なにより、人口が減ると、まちの活気も薄れてしまいます。
三次市では、人口減少や少子高齢化の進行を少しでも緩やかにするため、さまざまな取組を進めています。
たとえば、働く場を増やすために企業誘致やふるさと納税寄附金の拡大に取り組むとともに、小・中学校給食費の無償化や子育てしやすい環境づくりを進めています。

7. 三次家の家計簿

三次市の令和７年度一般会計決算を、年収 500 万円の家計にたとえると、このようになります。



三次家（１ケ月分）の家計簿（令和7年度決算ベース）

収　入

		月額
給料	基本給（市税）	7.1万円
	諸手当（譲与税・交付金など）	2.3万円
親からの仕送り（地方交付税）		16.0万円
貯金の取崩（基金繰入金）		1.5万円
家賃収入（使用料・手数料など）		2.9万円
家の増改築ローン（地方債）		4.0万円
補助金（国・県補助金）		7.8万円
		41.6万円

支　出

	月額
食費（人件費）	5.6万円
医療費（扶助費）	5.5万円
ローンの返済（公債費）	5.3万円
その他生活費（物件費など）	14.7万円
家の増改築（普通建設事業費）	4.6万円
子どもへの仕送り（他会計への繰出金）	2.5万円
貯金（積立金）	1.6万円
	39.8万円



収入は、給料だけでは生活に必要な額に十分届かないため、生活費の多くを親からの仕送りに頼っています。それでも足りない分は、貯金を取り崩したり、ローンを利用したりして、生活資金や家の増改築の費用をまかなっています。
支出は、日々の生活費のほか、家の増改築やローンの返済にかかる割合が大きく、家計のやりくりに苦労している状況です。
年度末のローン残高は５３１万円（実質負担 104 万円）、貯金残高は 211 万円です。

8. おわりに

三次市の財政について、少しでも興味を持っていただけたでしょうか。

まちづくりと財政は深く関わっており、これからのまちづくりを考えるうえでも、財政への理解は大切です。

これは、市役所だけでなく、一緒にまちづくりを進める市民のみなさんにも知っていただきたい内容です。

三次市のホームページに財政に関する情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。